

広報紙 秀友便り

ホームページ

<https://www.shuyukai.or.jp/>



発行：医療法人秀友会 札幌秀友会病院
住所：札幌市手稻区新発寒5条6丁目2-1
電話：011-685-3333

Instagram



Facebook



LINE



札幌秀友会病院からのお便り



スマート脳ドックを開始

札幌秀友会病院では、新たにスマート脳ドックを開始いたしました。同サービスは検査時間や受付時の無駄を徹底的になくし、脳の異常や認知症リスク因子を早期に発見するための検査を、継続しやすい料金でご提供します。下記 URL もしくは QR コードよりアクセスいただき、是非本サービスをご活用ください。〈文責：澤田〉

【URL】<https://smartdock.jp/clinic/shuyukai>

【QRコード】



「医療 DX ※1」の取り組みがUHB「みんテレ」にて放送

※1：医療 DX デジタル技術と医療データを活用し、医療の質を保ちながら、より効率的な医療を実現する取り組みです。

札幌秀友会病院が UHB 北海道文化放送より「医療 DX」をテーマに当院での DX の活用について取材を受けました。その様子が 2025 年 12 月 22 日（月）の「みんテレ」内にて放送されました。

下記 URL もしくは QR コードよりアーカイブ動画を視聴できますので、是非ご覧ください。

〈文責：澤田〉

【URL】https://www.youtube.com/watch?v=260zLaAy_XI

【QRコード】



ミャンマーからの技能実習生インタビュー

新たに2025年10月から一緒に働いているミャンマーから来ている技能実習生のお2人にインタビューをしました。〈文責：澤田〉

■リン リン アウン チャン ターさん

- ・Q1 日本にきて驚いたことはありますか?
→ 食べ物がいっぱいあることです。
- ・Q2 札幌の暮らしはどうですか?
→ 冬の雪道が大変。暖房費が高いです。
- ・Q3 ミャンマーでの好きな物や好きな事を教えてください。
→ チェーオー（麺料理）とチャウンターの海です。
- ・Q4 介護のお仕事はどうですか?
→ とても楽しいです。ちょっとだけ大変です。
- ・Q5 今後の目標を教えてください。
→ 今年、日本語の試験に合格したいです。



■エー ティンギーさん

- ・Q1 日本にきて驚いたことはありますか?
→ みなさんは自分が思っていたよりも優しいです。
- ・Q2 札幌の暮らしはどうですか?
→ すごく寒いです。冬に買い物をするときが大変です。自宅のブレーカーが落ちました。
- ・Q3 ミャンマーでの好きな物や好きな事を教えてください。
→ 好きな物はカキです。好きな事は友達と遊ぶことです。
- ・Q4 介護のお仕事はどうですか?
→ 介護のお仕事は楽しかったです。他の職員とコミュニケーションをとってお仕事をするときが楽しいです。
- ・Q5 今後の目標を教えてください。
→ 今年、N3試験（日本語能力試験）に合格したいです。



同じ病棟で働くみなさんと歓迎会

前列左から2番目がエーさん、同じく3番目が
リンさん

クリスマス会を開催しました

2025年12月18日にクリスマス会を開催しました。
入院患者さんも職員も楽しく過ごせました。

当院の公式インスタグラムでもその様子を視聴できますので、下記URLもしくはQRコードより是非ご覧ください。〈文責：澤田〉

【URL】<https://www.instagram.com/p/DSrj1bzE-62/>



【QRコード】



第66回全日本病院学会 in 北海道 学会発表報告

2025年10月11日（土）・12日（日）に、札幌コンベンションセンターおよび札幌市産業振興センターにて第66回全日本病院学会 in 北海道が開催されました。

全日本病院学会が北海道で開催されるのは、第57回（平成27年）以来10年ぶりとなり、地元札幌の医療機関として、当院も病院全体で積極的に参加いたしました。

今回の学会テーマは「温故知新～その先の、道へ。北海道から新風を～」で、伝統的な医療の価値を大切にしながら、新しい技術や取り組みを積極的に取り入れていこうという趣旨のもと、全国から多くの医療従事者が集まりました。

当院からは、医師、看護師、診療放射線技師、理学療法士、医事職員など、多職種にわたり13演題の発表を行い、日々の診療における工夫や研究成果を全国の医療関係者と共有しました。学会の運営にも協力し、北海道の医療発展に貢献する機会となりました。

学会では、AI（人工知能）を活用した業務効率化や、デジタル技術を医療現場に導入する取り組みなど、これから医療の在り方を考える発表が多く見られました。これらの技術革新は、より質の高い医療を提供することにつながります。

〈文責：名雲〉



■診療放射線科

放射線科からは、診療放射線技師の2名が以下の演題で発表を行いました。

- ・藤原：「MRA での脳動脈瘤計測における volume rendering パラメータの検討」
脳血管の検査において、より正確な診断につながる画像作成技術について研究発表を行いました。
- ・渡邊：「脳卒中患者と大腿骨近位部骨折患者の経時的な体組成変化についての検討」入院患者さんの体組成データを分析し、リハビリテーションの効果測定や個別化された治療計画の立案に役立つ知見を提供しました。

〈文責：名雲〉

■リハビリテーション科

リハビリテーション科からは5名が以下の演題で発表を行いました。

- ・工藤：「生成AIを活用した議事録による内省支援の可能性：アンケート調査による予備的検討」
- ・浦家：「長下肢装具使用時の介助歩行に関する理学療法士の経験年数の影響
-介助歩行技術習得に向けた基礎的検討-」
- ・遠藤：「低栄養患者に対する栄養介入と医科歯科連携の現状と課題」
- ・高田：「絵本を用いた文脈の補足がワーキングメモリーを向上させた一症例」
- ・飯田：「視覚誘導性自己運動錯覚により麻痺上肢の使用頻度の向上を認めた脳卒中患者の一症例」

これらの発表に対する活発な質疑応答が行われ、今後に活かせる多くの知見を吸収することができました。〈文責：神原〉



当院病棟スタッフが、第52回日本脳神経看護学会学術集会に参加

当院看護部では、患者さんにより良いケアを提供するために継続的な学びを大切にしております。この度、当病院スタッフが、2025年10月12日に開催された日本脳神経学会学術集会に参加し、最新の知見や看護実践に役立つ情報を得る事ができました。

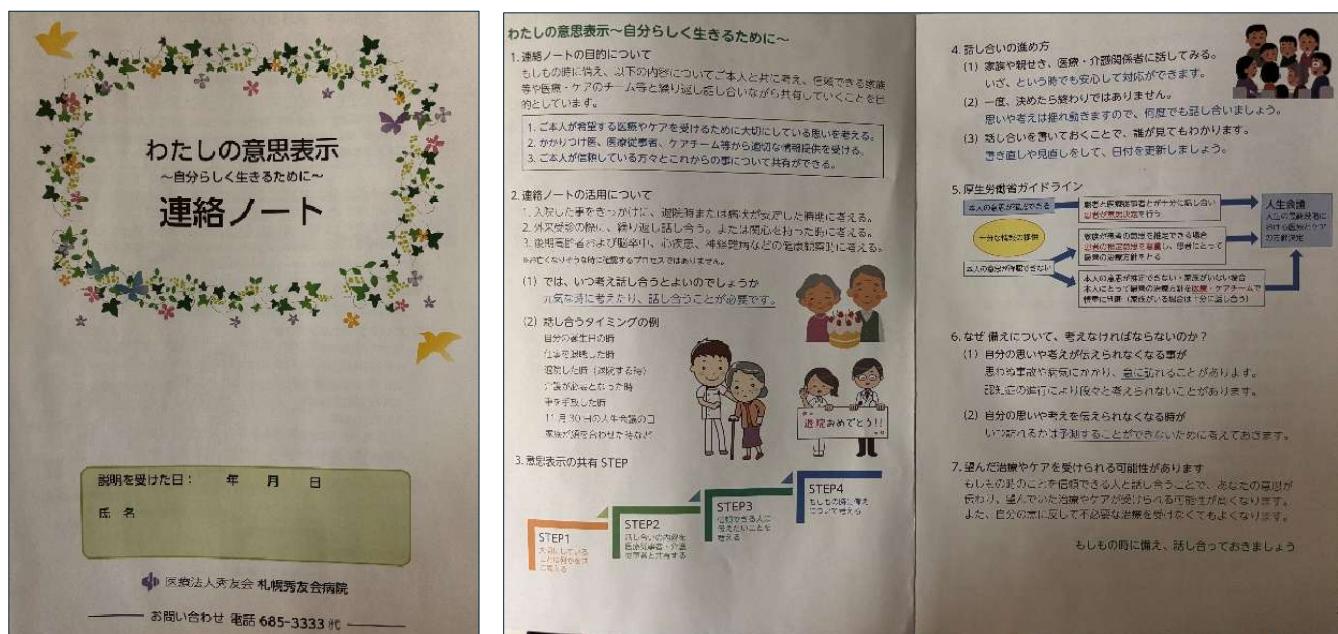
◆学会の概要

今年の学術集会では、例年通りの脳卒中治療の最新の動向に加えて以下のテーマが多く取り上げられていました。

- ・自立支援
 - ・医療安全と倫理
 - ・患者理解

特に当院でも現在取り組んでいる「ACP^{※2}の現状と課題」では多くの知見を得る事ができました。〈文責：森田〉

※2：ACP もしものときに備えて、どのような医療やケアを望むかを、本人・家族・医療者で前もって話し合う取り組みです。





医療法人秀友会グループからのお便り

ていね健康づくりフェスト

2025年11月14日（金）・15日（土）に開催された「ていね健康づくりフェスト」では、手稲区保健支援係、手稲区内の介護予防センターが中心となり、介護予防の普及や相談支援に取り組みました。手稲区第1、第2地域包括支援センター職員もスタッフとして参加し、相談対応などを行いました。

会場の手稲駅前イオンには、2日間で108名、140名と多くの方が来場され、「介護予防体操」や「ふまねっと運動」、「ボッチャ」など、気軽に楽しめる体験を通して健康づくりに触れていただきました。

当センター職員が担当する介護予防に関する情報提供や、認知症に関する相談コーナーでは、1日目は普段から予防センターにつながりのある顔なじみの高齢者の方々が多く参加され、「スマイルオレンジ」や「すこやか俱楽部」のチラシを持ち帰る姿も見られ、改めて介護予防の大切さをお伝えするよい機会となりました。

2日目は家族連れや若い世代の来場が多くみられ、買い物の合間に立ち寄ってくださる方が多数いらっしゃいました。「運動の場に通いたいが、強度が自分に合うか不安」というご相談には、その場で体操と一緒に体験していただき、後日「すこやか俱楽部」や「運動教室」への参加につながるなど、支援へつながる実りある場面もありました。

初開催のイベントでしたが、介護予防や地域包括支援センターの役割に関しても幅広い世代に知っていただける貴重な機会となりました。〈文責：遠藤〉



医療機関と介護支援専門員の意見交換会～ACP^{※2} の各機関の取組みを知ろう～

※2：ACP もしものときに備えて、どのような医療やケアを望むかを、本人・家族・医療者で前もって話し合う取り組みです。

2025年11月27日、「医療機関と介護支援専門員の意見交換会～ACPの各機関の取組みを知ろう～」と題し、札幌市介護支援専門員連絡協議会手稲区支部と手稲区第1・第2地域包括支援センターにおいて、顔の見える関係作りの機会として企画し、開催しました。介護支援専門員の他、区内7医療機関の61名が参加しました。

内容は、医療機関の取組みとして、手稲渓仁会病院MSW、イムス札幌リハビリテーション病院MSWからの報告があり、当法人の札幌秀友会病院「あいふらっと」からは赤澤副看護部長と川村入退院支援看護師2名から報告がありました。介護支援専門員からの報告として、当法人の秀友会介護保険相談センターより北村管理者が介護支援専門員の立場から報告があり、その後に各グループで「自身が業務の中で実践できるACP」や「それぞれの立場で、どんな連携ができたら良いか」等について意見交換を行い、ACPは医療だけが行うものではなく、「日頃からどのような価値を持って過ごされている方なのか」、「どのような人生を送りたいと考えている人なのか」など介護支援専門員がアセスメントした情報の共有が大切であることやACPはいつでも変えることが可能であることから、医療と介護が連携し早い時期からACPを考えていける支援を意識するとても良い機会となりました。（文責：阿部）

